

施策の方向 III-2 健全な水循環の確保

指標	目標・現状・指標がめざす方向
透水性舗装道路面積	【基準年度】385,003 m ² (2009年度) 【指標がめざす方向】多いほうが良い
湧水地周辺整備数	【基準年度】8か所 (2009年度) 【指標がめざす方向】多いほうが良い
河川流量	【目標】現状の流量を維持すること 【基準年度】多摩川本川：15.96～21.21 m ³ /秒 (2009年度) 【指標がめざす方向】現状維持
下水の高度処理普及率	【基準年度】高度処理普及率：19.6% (2009年度) 【指標がめざす方向】高いほうが良い
親水護岸整備延長	【基準年度】市内河川の親水整備延長：10,773m (2009年度) 【指標がめざす方向】多いほうが良い
市民一人一日当たりの生活用水使用量	【基準年度】市民一人一日当たりの生活用水使用量：237ℓ、 生活用水料金調定水量：122,559,827 m ³ (2009年度) 【指標がめざす方向】節水

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：透水性舗装道路面積 ・面積 11,063m ² を整備。透水性舗装の歩道は施工総面積 445,323m ² 。 (対前年度：1,836m ² 整備面積増加、対基準年度：多い)	3	2
■指標：湧水地周辺整備数 ・湧水地整備累計 9か所 (対前年度：増減なし、対基準年度：多い)	2*	
■指標：河川流量 ・多摩川本川の平均流量は 16.26～24.41m ³ /秒 (平均 19.35m ³ /秒) (対前年度：少ない、対基準年度：多い)	2*	
■指標：下水の高度処理普及率 ・27.0% (対前年度：増減なし、対基準年度：高い)	2	
■指標：親水護岸整備延長 ・親水護岸の整備延長 11,750m (対前年度：増減なし、対基準年度：多い)	2*	
■指標：市民一人一日当たりの生活用水使用量 ・235 リットル (対前年度：0.8%減少、対基準年度：少ない)	3*	
■指標：河川流量 (再掲)	2	

[方向評価は「*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

現 状

■透水性舗装*道路面積

透水性舗装は、歩道に採用されています。道路の新設や拡幅、交通安全対策による歩道設置や歩道の改築により、毎年、透水性舗装道路面積が増加しています。

■湧水池周辺整備数

2003年度に、多摩川水系の台地・丘陵地を調査した結果、199か所の湧水地を確認、2004年

度に鶴見川水系で 252 か所の湧水地が確認されました。2013 年度に、鶴見川水系の台地・丘陵地のうち、2004 年度の調査結果を基に、現在の湧水地の状況を調査した結果、枯渇等により確認された湧水地は、221 か所でした。調査によると、湧水量が多い湧水地については、大きな水量の減少は見られないものの、湧水量が少ない湧水地については、湧水量の減少が目立っています。

■河川流量

●多摩川（多摩川原橋（都内）、多摩水道橋、二子橋、調布取水堰（上））：

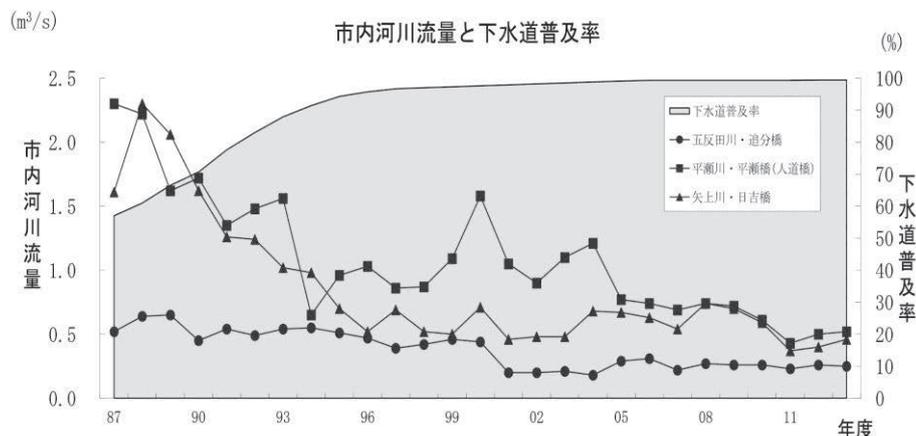
平均流量は 16.26~24.41m³/秒（平均 19.35m³/秒）で、前年度（19.51m³/秒）に比べると減少、2009 年度の 15.96~21.21m³/秒（平均 18.45m³/秒）に比べると増加しています。（国土交通省調査による）

●鶴見川（亀の子橋（横浜市内））：

平均流量は 7.35m³/秒で、前年度（5.44m³/秒）に比べて増加、2009 年度（6.24m³/秒）に比べて増加しました。（国土交通省調査による）

●市内河川（矢上川、平瀬川、五反田川）：

下水道普及に伴う浄化槽の廃止や近年の宅地化等土地利用状況の変化に伴う雨水浸透機能の低下等により、流量は年々減少傾向にあります。魚類は、三沢川ではアユ、ウグイ、オイカワ等が、平瀬川ではウグイ、オイカワ、タモロコ等が、矢上川ではオイカワ、アユ、ボラ等が、渋川ではスミウキゴリ、カマツカ、オイカワ等が確認されています。



河川流量測定結果

測定点		流量：年平均値 (m ³ /s)						
		2000年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	
多摩川水系	本川	多摩川原橋*	15.57	18.57	21.80	24.14	17.41	16.26
		多摩水道橋*	16.77	15.96	17.77	21.97	15.54	17.37
		二子橋*	18.72	18.04	21.83	18.55	19.08	19.36
		調布取水堰*	23.33	21.21	22.88	31.28	25.99	24.41
	一ヶ領用水	本川・堰前橋	1.28	0.67	0.68	0.58	0.54	0.52
		宿河原線・出会い橋	0.83	0.32	0.29	0.23	0.29	0.22
		円筒分水下流今井仲橋	0.33	0.28	0.46	0.33	0.29	0.24
		三沢川・一の橋	0.75	0.67	0.80	0.92	0.84	0.82
		平瀬川・平瀬橋(人道橋)	1.58	0.72	0.61	0.43	0.50	0.52
		五反田川・追分橋	0.44	0.26	0.26	0.23	0.26	0.25
鶴見川水系	片平川・片平橋下	0.06	0.05	0.05	0.05	0.06	0.05	
	麻生川・耕地橋	0.89	0.67	0.74	0.81	0.85	0.86	
	真福寺川・水車橋前	0.01	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	
	矢上川・矢上川橋*	2.62	3.20	2.38	4.63	3.56	3.56	
	有馬川・五月橋	0.15	0.13	0.15	0.13	0.09	0.13	
渋川・渋川橋	0.27	0.23	0.34	0.28	0.23	0.16		

備考 *は国土交通省測定

■下水の高度処理普及率

「東京湾流域別下水道整備総合計画」に基づき、関係自治体が連携して高度処理施設の導入を進めています。2011年度に、入江崎水処理センター西系高度処理施設の一部が稼働を開始しました。2013年度末における高度処理普及率は27.0%となっています。

■親水護岸整備延長

●多摩川：

オープンスペースが広がり、アクセスも可能な自然の水辺が残され、レクリエーションやスポーツ、釣り等、市民の憩いの場となっています。また、上流から河口部まで様々な魚や植物、鳥などが生息しています。

●市内河川：

治水対策で護岸や川床等の改修・整備が進み、自然護岸はほとんど残されていません。このため、二ヶ領用水総合基本計画*（1992年策定）等に基づき、親水護岸の整備、川沿いの緑化、水深や流速に配慮した河川敷の整備など、多様な生物が生息できる河川構造の導入等を図っています。

2013年度末現在、市内河川の親水護岸整備延長は11,750mとなっています。

また、市民生活に密着した魅力ある水辺空間の創出を目指し、急激な都市化によって損なわれた水辺空間である江川に等々力水処理センターの高度処理水を活用した全長2,400mのせせらぎ水路と緑道が2003年5月に5年の歳月をかけて完成しました。

●海域：

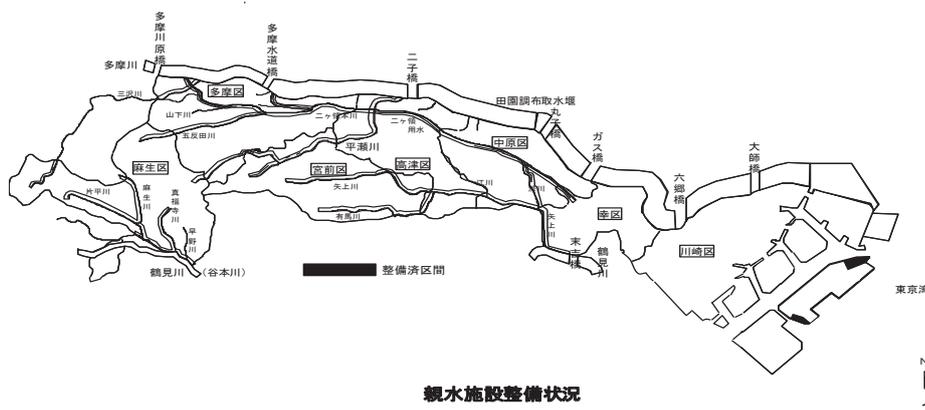
これまで、川崎港は京浜工業地帯の中核を成す工業港として主に産業の利用に供されていたことから、臨海部は市民から遠い存在となっていました。このため、市民に開かれた安全で快適な臨海部の環境再生を目指し、海と親しめる公園等の整備を進め、約32haの臨海公園（2,513mの水際線延長）を有しています。なお、2008年4月には、約50年ぶりに川崎に復活した人工海浜を有する東扇島東公園が完成しました。



二ヶ領用水



人工海浜



親水施設整備状況

■市民一人一日当たり生活用水使用量

市民一人一日当たり水使用量は、1995年度をピークに減少傾向が続き、近年は横ばい傾向となっています。2013年度は235リットルと前年比で0.8%減少となり、2009年度比においても同様に0.8%の減少となりました。

【年度別 生活水の一人一日当たり水使用量】

年 度	2009	2010	2011	2012	2013
使用量 (L/日/人)	237	238	235	237	235